

延べ床 旧施設の10倍に拡張

大宮支店が竣工

第一貨物 自社集配の拡大など

第一貨物(武藤幸規社長)は11月29日、大宮支店の竣工式を開催。きょう3日から営業を開始する。

同社では従来、埼玉県内に岩槻、八潮、熊谷、栗橋、入間の5拠点を構築していたが、岩槻支店の狭あい化などを踏まえて新施設を建設したものの。

これにより、近隣事業所の集配エリアの見直しや直行便拡大による輸送品質向上、平成26年の圏央道全線開通を見据えた特積みネットワークの一層の充実化、保管施設を組み合わせたロジスティクス事業の強化などを図っていく。

具体的には、さいたま市の中央区と桜区を自社集配エリアとし、板橋・

八潮・栗橋・東京の4事業所の集配エリアを見直し直行便を拡大する。9600平方メートル規模の倉庫は2フロアあり、このうち1フロアは同社の主要顧客であるヤマダ電機の専用スペースとして使われる。

また、施設内に久留米運送の埼玉店が移転入居し、来年4月に営業を開始する予定。このため1階の特積みホームは分割して使用される。

大宮支店は、さいたま市岩槻区大字長宮字上谷中777-1に所在。敷地面積は2万2565平方メートル。建物は鉄骨造りで、荷捌場および倉庫3階建て・事務所4階建て、延べ床面積2万9737平方メートル。岩槻支店と足立支

店を統廃合し、敷地面積は旧施設合計の約3・6倍、延べ床面積が旧施設合計の約10倍に拡張された。土地・建物とも賃借。荷役用のエレベーター5基、ドックレベラー2基を備え、ホームの照明には長寿命LEDを採用したほか、太陽光発電設備(設備容量928・6キロワット)を敷設するなど、省エネにも配慮した点が特徴。駐車場への緑地ブロック採用、敷地周辺への緑地帯・植栽帯の採用で、周辺環境への配慮も施した。

また、「東日本大震災時には物心両面で多くのご支援をいただいた」と、出席者に謝意を示すとともに、「被災地に入りまする荷物は激増しており、車の手配が間に合わないぐらいい。物流面からみると復興は少しずつ進んで

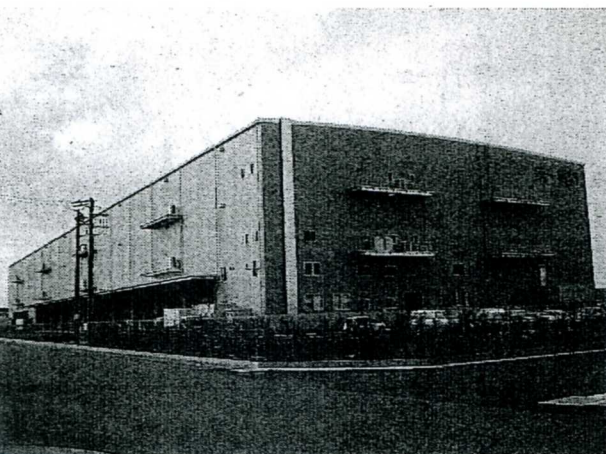
いる。被災地に工員を運ぶ続けるのが当社の使命であり、東北への玄関となる大宮支店の開設を機に、一層の輸送サービス向上を実現したい」と意欲をみせた。

来賓からは、二又茂明久留米運送社長と大日精化工業の斉藤修東京事業所長があいさつ。このうち二又社長は「新施設は物流基地のユートピア。当社も第一貨物と一緒に仕事をさせてもらい、これ以上幸せなことはない。パートナーとして日々精進していきたい」と語った。

引き続き安達常務、二又社長、斉藤東京事業所長のほか、ヤマダ電機の草村達也常務取締役、丸山運輸倉庫の丸山榮徳社長が鏡割りを行い、歓談となった。

感も施した。このほか仮眠室に置くカプセルベッドには、アルミ製でリサイクルが可能なものを設置している。

26日に現地で開催された竣工式には、荷主関係者など約50人が出席。冒頭あいさつした安達英雄常務取締役は、施工業者等に謝辞を述べた後、圏央道沿線に拠点を配置していく同社の戦略が完成に近づいたと語り、大宮支店隣接地に同規模の拠点を新設する構想も明らかにした。



大宮支店の外観